

2024年 4月 1日

各位

日本手術看護学会近畿地区  
大会長 佐々木 光



## 趣 意 書

謹啓

陽春の候、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

日本手術看護学会近畿地区では、医療の進歩や社会のニーズに応えることのできる手術看護を提供する為に、手術室看護師一人ひとりの看護実践能力の向上に微力ながら支援しているところでございます。

その為、私たちは研修活動の一環として、「第11回日本手術看護学会近畿地区大会」を企画いたしました。

つきましては、ご多忙のところ恐縮に存じますが、ご協力をお願いいたしたく、何卒宜しくお願い致します。

謹白

## 記

- 名 称 : 第11回日本手術看護学会近畿地区大会  
日 時 : 2024年6月29日(土) 9時15分～16時30分  
場 所 : 神戸ファッションマート (兵庫県神戸市東灘区向洋町中6丁目9)  
講演内容 : 招待講演, 教育講演, シンポジウム, トピックス,  
看護研究・看護実践報告, 認定看護師企画, 共催セミナー など  
企画内容 : 周術期看護の未来を考える ～多様化する社会に求められる看護～

超高齢化社会を迎える2025年問題が目前に迫り、医療人材の不足も懸念される。さらに2040年を展望した社会保障・働き方改革が急務となっている。新型コロナウイルス感染症への対応により、生活様式、教育体制にも変化をもたらした。時代とともに様々な価値観や多様性を認め、尊重し、多様化する社会への対応が求められている。

周術期で働く私たちは、患者の尊厳を守りつつ、安全に高度医療が受けられるよう手術看護を学び実践してきた。患者のみならず看護師も多様化しているのではないだろうか。

働き方の多様化や性別・国籍・人種・年齢などの違いを受け入れて、人材を育成することが求められている。一方で医療は日々進歩しており低侵襲手術が主流となっている。AIを用いた医療、高度な画像診断装置を備えたハイブリッド手術室など新しい技術に適応する知識や技術の習得とともに、他職種や各専門チームとの協働・連携が求められている。手術を受ける患者においては、高齢患者の手術の増加、在院日数の減少など、地域や在宅につなぐことを見据えた周術期看護を実践していく必要がある。

最先端の手術医療と多様化する社会に求められる手術室看護師の役割とは、その専門性を発揮するために行動すべきことは何か、改めて見つめ直し、持続可能な取り組みをともに考える機会としたい。

本大会を通じて、看護師一人ひとりの成長と発展する周術期看護の魅力を発信するとともに未来を考えるきっかけとなれば幸いである。

- 連絡先 : 日本手術看護学会近畿地区事務局  
〒535-0022  
大阪市旭区新森 5 - 3 - 22 下野印刷株式会社内  
TEL (06) 6958-6002 FAX (06) 6958-6663